



最上エコポリスの実現
=豊かな自然 輝くもがみ=

小国川だより

最上小国川治水対策について、お知らせします。

小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第34号

平成23年11月24日発行

山形県 最上総合支庁
建設部 河川砂防課

第9回最上小国川流域環境保全協議会を開催

10月18日(火)午後1時30分から、最上総合支庁5階講堂において、第9回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました。

今回の協議会には12名の全委員の方にご出席いただき、主に「動植物重要種の環境保全方法」、「ダム供用時の影響の検討」等についてご検討いただきました。

なお、これまで委員長を務めていただいた中島勇喜委員(山形大学副学長)がご逝去されたことに伴い、後任として同大学農学部柳原敦准教授が新たに委員として就任し、委員長には原慶明山形大学名誉教授が互選されました。

今回の協議内容は、下記のとおりです。

【協議内容】

- 1) 第8回協議会における指導事項と対応について
- 2) 平成23年度環境影響調査の中間報告について
 - 2-1) 猛禽類調査
 - 2-2) ヤマセミ調査
 - 2-3) ワタナベカレハ調査
 - 2-4) 付着藻類調査

3) 付着藻類への影響検討について

4) 今後の環境調査予定について

今号では【協議内容】のうち、1)第8回協議会における指導事項と対応についてと、2)平成23年度環境影響調査の中間報告について紹介します。



会場：最上総合支庁5階講堂



原 委員長



柳原 委員

次号以降で、付着藻類への影響検討や今後の環境調査予定について紹介します。

1) 第8回協議会(前回)における指導事項と対応について

【主な指導事項】

① 付着藻類調査結果

○洪水時に付着藻類はどう変化するか。 →

【対応】

①洪水時の前後の時期で、藻類の減少等の結果が見られ、3年に1回程度の洪水で剥離すると考えられる。

2) 平成23年度環境影響調査の中間報告について

2-1) 猛禽類(もうきんるい)の調査

4、6月に繁殖確認のための定点調査と7月にクマタカ及びサシバの営巣確認のための林内踏査を実施しました。

その結果、下記のこと考えられます。

【クマタカ】

今期、繁殖は成功しなかった。

【オオタカ・ハイタカ】

今期、影響範囲外で繁殖している可能性がある。

【サシバ】

今期、2つがいの繁殖が行われた。

【ハチクマ】

今期、繁殖は行われなかった。

●専門家の意見

今回の調査結果から、現時点ではダム事業と猛禽類は共存が可能と言える。

2-2) ヤマセミ調査

5月に定点調査や土崖(つちがけ;土砂がくずれたりしてできた急斜面)調査および巣穴の利用状況調査を実施しました。

その結果、最上小国川ダム流域を生息・繁殖域としていますが、巣穴はダム予定地から離れた場所で確認されました。

●専門家の意見

調査結果は予想通りであった。

なお、今後も確認された巣穴のモニタリングを継続していく必要がある。



ヤマセミと巣穴

撮影日:平成23年5月31日

2-3) ワタナベカレハ 調査

8月にライトトラップ調査(参照:小国川だより第23号)を2地点で行いました。

その結果、オス25個体、メス3個体を確認しました。性比(オスとメスの個体数の割合)に偏りがありました。

●専門家の意見

ワタナベカレハは、情報が不足している種で貴重ではあるが、最上町では全国でもトップクラスと呼べる程生息しているようだ。

オスとメスの性比に偏りがあったことについては、発生の時期の違いが考えられる。

また、一般的に蛾は、メスがフェロモンを出し、オスが引きつけられる。メスはオスよりもかなり大きい。このことから、メスは殆ど動かずオスが来るのを待つという状況が予想される。

今回の調査結果は、ダム付近の生息状況の把握が良くできている。

ワタナベカレハ (左:オス、右:メス)
平成23年8月3日ダム予定地周辺で捕獲

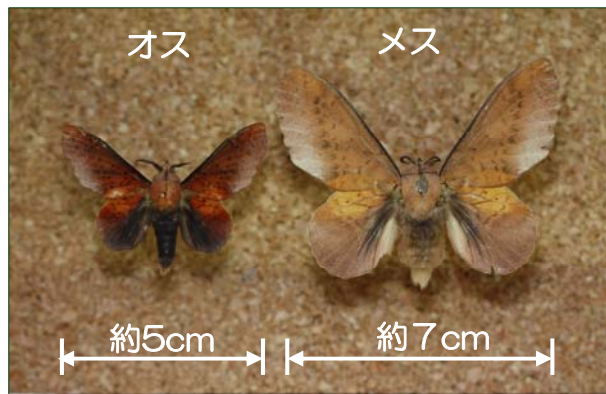
2-4) 付着藻類 調査

3月と5月に付着藻類調査とアユのはみあと調査(参照:小国川だより第16号)を行いました。

その結果、藻類については減少傾向がありました。また、アユのはみあとは確認されませんでした。

●専門家の意見

付着藻類と洪水との関係や季節変化がわかったことから、今後の検討を行う上で、付着藻類調査結果の資料はそろったと考えられる。



※詳細についてはHPを参照してください。

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/mogami/314074/kannkyou.html>

最上小国川流域の環境を守る活動をされている方々をご紹介します

最上町環境保全員協議会

最上小国川流域で、河川アダプト団体(参照:小国川だより第13号)として河川の美化活動をされている「最上町環境保全員協議会」をご紹介します。

会長の黒坂孝氏に、活動状況等をお聞きしました。最上町環境保全員協議会は、河川美化活動の他に、最上町内の不法投棄監視活動も行っています。

◆会が立ち上がったきっかけは、最上町が環境にやさしい町づくりを目指すこととなったことです。

◆活動開始は、平成4年度で、会員は各地区から推薦された21名で構成されています。平成14年度に河川アダプト団体の認定を受け、今年の河川美化の活動回数は10回でした。

◆活動で一番大変だったのは、暑い日の水やり作業や、河川の土手が固かったり、土壌が痩せているため根を均等に定植できなかったことです。

嬉しかったことは、今年も鮮やかできれいな花を咲かせることができ、往来する方々から大変喜ばれたことです。

◆これからも、活動を通じて、最上町の美しく豊かな自然環境を守り育て、後世に継承していきたい。



会長の黒坂 孝



活動状



活動状



コスモス開花状況(最上町若宮地)

発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課 最上小国川ダム建設室 高橋・後藤
〒996-0002 山形県新庄市金沢字大道上 2034
お問合せ先 電話 0233-29-1407 Email -【前画面を参考にしてください。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。アドレスは下記のとおりです。

http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html